

# デンマーク・リングステッド市の高齢者福祉

## 75歳以上の全市民を家庭訪問して アクティビティ参加を働きかける

デンマーク・リングステッド市はシェラン島のほぼ中央に位置する。首都コペンハーゲンから車で約1時間と交通の便がよく、人口は3万4481人、65歳以上人口6171人、高齢化率17.9%。世界有数の時計修理学校があり、毎年、人口は転出数より転入数のほうが多く活気のある若い街だ。しかしこの小さな市でも、2031年にかけて80歳以上人口が増加すると予想し、その対策づくりを急がなければならないと、ヘンリック・ヴィーデスティーン市長は語る。

市では高齢者福祉サービスの品質基準を設け、意味のある長生きのためのアクティビティやサポートを実施している。75歳以上の全市民を家庭訪問し、参加を働きかけて、介護予防や認知症高齢者の早期発見につなげている。できるかぎり長く現状を維持し落ち着いた暮らしができるよう、市のサポートを市民に周知徹底している。

市が提供する高齢者福祉サービスには、訪問介護(865人が利用)、訪問看護(498人が利用)、栄養サポート、配食、補助器具貸与、トレーニング、リハビリテーション、緊急ショートステイ、デイホーム(身体介護・認知症)、在宅での看取り、プライエボリー(24時間ケア付きの介護住宅)(203戸)とエルダーボリー(介護職員外付けの高齢者住宅)(67戸)、障害者住宅(約300戸)がある。

市内には3カ所の高齢者福祉センターがあり、上記サービスがこの3カ所に併設されている。そのうちの1つ、ソールバックン高齢者福祉センターを訪ねた。所長のジョン・アナセン・ラゴニさんが私たちを迎えてくれた。プライエボリーの入居者の75%が認知症と診断されている。

## オーガニック村の昔ながらの生活体験で 認知症ケアの効果を実感

市の認知症への取り組みは積極的で、認知症でも地域社会の一員として社会に参加できるように、多くの機会をつくりだしている。保育園児との交流、小中学生と料理教室、地域ボランティアとの会話、野菜栽培や養蜂などのアクティビティは活発で、認知症の人の家族のサポートも積極的に行っている。



◀「カフェ・インゲボー」のスタッフ



▶認知症ケアで馬との触れ合い

馬と生活をしてきた入居者が馬のいない生活に馴染めず、認知症が次第に悪化した。そこで、ドアと壁面に、馬小屋にいる馬の絵を描いたり、短時間だが本物の馬と直接触れてもらうなど、その人にとって効果的なことを積極的に取り入れている。

市内にあるオーガニック村「ハリングリル」は、リサイクル、自給自足、エコロジー、建築などにこだわり、昔ながらの生活をする持続可能な共同生活の場だ。認知症の人がここを訪ねると、生き生きとした生活をしてきた昔の記憶が蘇り、ケアの効果が実感できる。

また、国内外から最も注目されているのが「カフェ・インゲボー」だ。クヌードラヴァード高齢者福祉センターでカフェレストランを運営するのはNPO法人だが、料理の評判は最高級クラスで、メインシェフはコペンハーゲンのオペラハウスのレストランから転職したヤコブさんが務める。3カ所のプライエボリーの食事や在宅高齢者への配食、年金受給者など多くの団体のパーティや料理教室をとおして市民とのつながりが濃密で、ここから発信するアクティビティはとても人気が高い。

本物のサービスが随時提供される社会は、とても「ヒュック」(デンマーク語で、穏やかで居心地のよい時空間)なのだ実感した。

	Name 田村 明 孝
	たむら・あきたか
Profile	タムラプランニング&オペレーティング代表。有料老人ホームなどの開設コンサルティングのほか、全国の高齢者施設、介護保険居宅サービス、自治体の介護保険事業計画のデータベースの収集・販売などを手がける。高齢者住宅連絡協議会総監督。